

月刊 都響

2021 October



気を付けてね！ ホールでの過ごし方

- 携帯電話や音が鳴るモノは電源を切りましょう。
- 演奏中はお話しないで静かに聴きましょう！
周りの人も演奏を楽しみに来ています。
- 録音・録画、写真撮影は禁止です。

Promenade Concert

プロムナードコンサート No.393

指揮／小泉和裕

チェロ／佐藤晴真

ドヴォルザーク：チェロ協奏曲 口短調 op.104 (40分)

ドヴォルザーク：交響曲第8番 ト長調 op.88 (38分)

東京都交響楽団

ドヴォルザークさんって、どんな人？

ANTONÍN LEOPOLD DVOŘÁK

今日のコンサートで聴いてもらうのは、アントニン・ドヴォルザーク（1841～1904）というボヘミア（現在のチェコの西部地方）の作曲家による名曲です。彼は小さな村のお肉屋さんの家に生まれ、店を継ぐことを期待されていましたが、あまりにも上手にヴァイオリンを弾いたので、周りの音楽教師たちが応援してくれて、音楽の道に進むことができました。



作曲家として芽を出したのは、30代になってからのことです。当時のチェコを支配していたオーストリア帝国の政府は、芸術家にお金のサポートしていたのですが、そのオーディションに見事合格したのです。審査をしたのはドイツの大物作曲家ブラームスでした。ブラームスは自分の楽譜を売り出している出版社にもドヴォルザークを紹介してくれました。おかげで、ボヘミアの独特なリズムや美しいハーモニーをたたえたドヴォルザークの音楽はヨーロッパ中のみならず新大陸アメリカにまで評判が届くようになり、音楽院の院長としてニューヨークに呼ばれるほど有名になりました。



国際的なスターとなっても、彼は祖国チェコへの愛がとても深く、その音楽はチェコの伝統的なリズムや民謡風のメロディーに富んでいて、“お国柄”をよく表した「国民学派の音楽」と言われています。また、ドヴォルザークは音楽界切っ掛けの「鉄道オタク」としても有名です。毎日のように駅まで散歩し、時刻表を丸暗記するほど機関車を眺めて楽しんでいましたそうですよ。

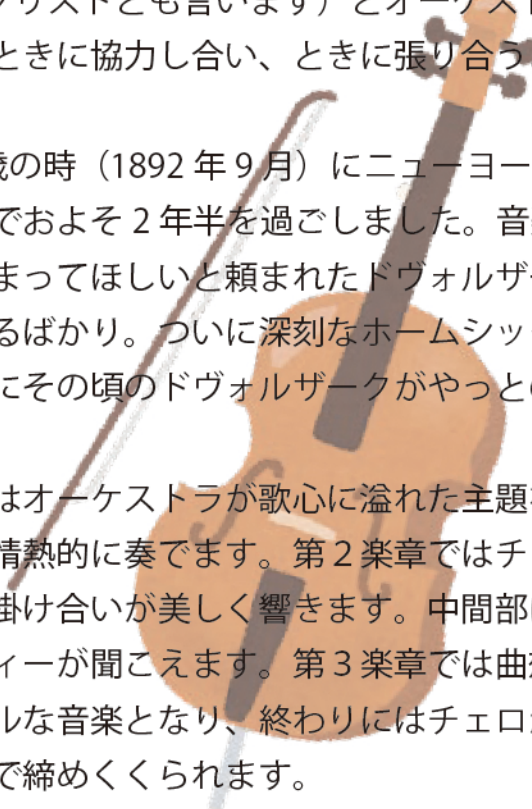
チェロ協奏曲 口短調 op.104

CELLO CONCERTO

「協奏曲」とは、指揮者の横で演奏する独奏者（ソリストとも言います）とオーケストラとで演奏される音楽です。独奏楽器とオーケストラは、ときに協力し合い、ときに張り合うようにしながら、音楽を一緒に盛り上げていきます。

先ほどご紹介したとおり、ドヴォルザークは51歳の時（1892年9月）にニューヨーク・ナショナル音楽院の院長として迎えられ、アメリカでおよそ2年半を過ごしました。音楽院の院長としてあと1年、任期を延ばしてアメリカに留まってほしいと頼まれたドヴォルザークでしたが、家族の待つ自然の美しい祖国への思いは募るばかり。ついに深刻なホームシックに悩まされてしまいました。このチェロ協奏曲は、まさにその頃のドヴォルザークがやっとなこと書き上げられた作品なのです。

曲は3つの楽章から成り立っています。第1楽章はオーケストラが歌心に溢れた主題をたっぷりと響かせたあと、独奏チェロが堂々と登場し、情熱的に奏でます。第2楽章ではチェロのゆったりとした息の長いメロディーと木管楽器との掛け合いが美しく響きます。中間部にはドヴォルザークの歌曲「私にかまわないで」のメロディーが聞こえます。第3楽章では曲想はガラリと変わって、哀愁と情熱とを帯びたリズムカルな音楽となり、終わりにはチェロがたっぷりと独奏を聴かせ、オーケストラの輝かしい響きで締めくくられます。



交響曲第8番 ト長調 op.88

SYMPHONY NO.8

後半に演奏される交響曲第8番は、ドヴォルザークが48歳の年（1889年）に書いた作品です。この曲はイギリスの出版社から楽譜が出されたため、「イギリス」というニックネームで呼ばれていたこともあります。ドヴォルザークは生涯で9回もイギリスを訪問し、そこで自作品を指揮して披露しています。イギリスの人々もドヴォルザークのことが大好きで、彼の国際的な活躍はまさにイギリスから始まったと言えます。

そんなイギリスでの大成功が、ドヴォルザークにお金のゆとりを与えてくれました。そこで彼は、故郷ボヘミアにあるヴィソカーというのどかな村に、夏の別荘を買うことにしました。美しい森と鳥たちのさえずりに囲まれながら、ドヴォルザークはその家で幸せな気分で作曲に専念することができました。そうして生まれた名作の一つが、この第8番の交響曲です。ですから、実際の音楽にインスピレーションを与えてくれたのはイギリスではなく、ヴィソカーの豊かな自然だったのです。



ヴィソカーにある
アントニン・ドヴォルザーク記念館

第1楽章は光り輝くようなメロディーや、まるで鳥の声のような爽やかな響きが聞こえます。ゆったりとした第2楽章は弦楽器の語りかけるようなメロディーが印象的です。哀愁に満ちたワルツの第3楽章を経て、華やかなトランペットのファンファーレで開始する第4楽章では、チェロがゆったりとしたメロディーを聴かせます。

指揮者 小泉和裕



©Rikimaru HOTTA

京都生まれ。東京芸術大学指揮科卒業後、ベルリンのホッホシューレ（現、ベルリン芸術大学）に入学。1973年夏、ボストンのタンゲルウッド音楽祭に参加し研鑽を積む。1973年、第3回カラヤン国際指揮者コンクールに第1位入賞し、ベルリン・フィルを指揮してベルリン・デビューを飾った。その後もヨーロッパ、アメリカ、カナダなどで精力的に活動を行い、国内のオーケストラとも多数共演している。現在、東京都交響楽団終身名誉指揮者、九州交響楽団音楽監督、名古屋フィルハーモニー交響楽団音楽監督、神奈川フィルハーモニー管弦楽団特別客演指揮者。

チェロ 佐藤晴真

2019年、ミュンヘン国際音楽コンクールチェロ部門において日本人として初めて優勝して、一躍国際的に注目を集めた。18年には、ルトスワフスキ国際チェロ・コンクールにおいて第1位および特別賞、第83回日本音楽コンクールチェロ部門第1位および徳永賞・黒柳賞などたくさんの受賞歴を誇る。すでにバイエルン放送響はじめ国内外の主要オーケストラと共演を重ねており、室内楽にも積極的に活動している。現在、ベルリン芸術大学にてJ=P. マイントツ氏に師事している。使用楽器は宗次コレクションより貸与されたE. ロッカ 1903年。



©ヒダキトモコ

オーケストラ配置図（10月30日 プロムナードコンサートNo.393）

演奏する曲によって使わない楽器もあります。
どの曲にどの楽器が登場するのか注目してね。



TMSO

東京都交響楽団

東京オリンピックの記念事業として
1965年に東京都が設立しました。

都響（ときょう）という愛称で親しまれています。

上野の東京文化会館を本拠地として、サントリーホールや東京芸術劇場などで定期的にオーケストラの演奏会を開催しています。その他、交響組曲『ドラゴンクエスト』（全シリーズ）や『Fate/Grand Order』などゲーム音楽の演奏や、都内の小中学生を対象に開催している音楽鑑賞教室、病院や福祉施設への出張演奏など多彩な活動に取り組んでいます。

2021年7月に開催された東京2020オリンピック競技大会開会式では、「オリンピック賛歌」の演奏（大野和士指揮／録音）を務めました。



©Rikimaru Hotta